

官民融合型集落活性化拠点「里の駅」デザインプロジェクト

概要

合併後の役場の本庁方式への移行と支所の縮小に伴い懸念される問題と、JA支所の統廃合問題を解決するため、行政、地域住民、JA、商工会、社会福祉協議会等が知恵を出し合い、旧村単位での地域の活性化、地域づくりの拠点としての「里の駅」を作るべく、その整備・活用プランを住民、関係団体等を交えた多様な主体の参画と協働によるプロセスによって協議・検討・デザインする事業である。

事業の内容

事業の内容

- (1)住民ニーズ及び地域課題の整理:住民アンケート調査の実施
- (2)有識者・関係団体代表者等による推進協議会の開催と住民ワークショップの実施
 - ・推進協議会の実施計5回(座長:法政大学岡崎教授)
 - ・ワークショップの実施計7回(全体1回、地域別2回×3地域、延143人参加)
 - ・ワークショップメンバー等による先進地視察の実施(2回)
 - ・「里の駅」だよりの発行による検討情報の村民共有
- (3)「里の駅」整備プランの作成
 - ・各地域の特性を活かした「里の駅」づくりの基本方針の策定
 - ・「里の駅」整備のデザインスケッチの作成

総事業費

10.5百万円

ポイント

○今後さらに厳しさを増す人口減少、高齢化社会を見据え、合併した旧村単位でそれぞれの地域の課題や特性を踏まえた「里の駅」づくりを行うことにより、それぞれの地域の活力を生み出し、お互いに「連携し合い」、「補完し合い」、「高め合う」ような村づくりを進めていくことにより村全体の活力を高めようとする取り組みである点

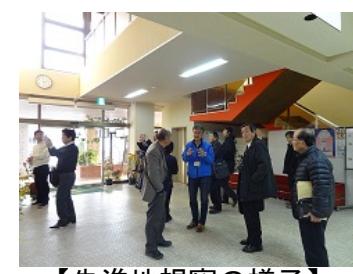
事業の成果

- 3つの旧村地域ごとに、「里の駅」の基本方針を住民参画により策定し、次年度以降の整備方向性が明確化
→暮らしの相談窓口、地域活性化の拠点となる交流の場としての機能を明確に位置付け
- 住民が主体的に地域づくりを進めていくこうという機運の醸成と主体的な活動組織設立に向けた動きの萌芽
→今後、既存団体との連携や、さらなる住民の巻き込み等による住民主体の里の駅の運営体制構築が課題
- 外部専門家や地域おこし協力隊など「外部の視点」を通した新たな「気付き」の付与
→村の資源・魅力の再発見、地域おこし協力隊を中心とした「里の駅」や新たな地域づくりの展開への期待

長野県筑北村



【ワークショップ風景】



【先進地視察の様子】



【住民報告会の様子】



【里の駅デザインイメージ】